

## インターバンクの声（2017年9月25日）

週末の外国為替市場では、北朝鮮情勢に対する警戒感が再燃、東京市場の午前中に円買いが優勢となって1円近く円高・ドル安が進んだが、午後の途中からは111円80銭から112円10銭のレンジ内での安定した取引が続いた。ロンドンやニューヨーク市場も新規の材料に乏しく、ドルの上値が10銭ほど広がっただけで、レンジ相場がニューヨーク市場のクローズまで続いた。

欧州では日曜日にドイツ議会選挙を控え、ユーロが若干値下がりするような神経質な取引となったが、メルケル首相率いる与党「キリスト教民主・社会同盟」の勝利が固いと予想されていたこともあって、ニューヨーク市場後半の下落も1.19ドル台中盤までに留まった。

週末、主要通貨の中で一番大きく変化したのは英ポンドだが、メイ首相のフィレンツェでの演説が、EU離脱の方針に関して今回も具体的な内容を示さなかったことが嫌気されたようだ。

今週は安倍首相が衆院解散・総選挙に踏み切る意向のようだが、海外では米FRB高官の講演も連日予定され、経済指標の発表も数多くある。

株や債券の為替市場への影響にも注意しておきたい。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。